

知られざる国

テレビ番組のなかのヴァヌアツ

白川 千尋
(しらかわ ちひろ)

先端人類科学研究所

時	論
新	論
理	想

日本で広まつたイメージ

さて、それから今までにヴァヌアツをとり上げたテレビ番組はどれくらい放送されているのだろうか。二〇〇〇年まで調べてみたところ、先の番組を含めて少なくとも一六件の番組があつた。このうち一二件は一九九〇年代から二〇〇〇

日本で広まつたイメージ
わたしの「フィールド」は南太平洋の島国ヴァヌアツである。東隣にフィジー、南西隣にニコラカレドニアがあるのだが、これら観光地として有名な国々に比べると、日本でヴァヌアツの知名度はかなり低い。ヴァヌアツをフィールドにしていると言ふと、「アフリカにある国でしょ?」などと聞かれることもある。ボツワナと間違えられているらしい…。

そんなヴァヌアツだが、それでも最近テレビ番組などで少しすつとり上げられるようになってきている。わたしの知る限りでは、最初にまとまつた形でヴァヌアツをとり上げた番組は一九七九年に放送されている。ペントコストという島の人びとがおこなつているヤムイモの収穫儀礼を紹介したものである。パンジー・ジャンプの原型と言えばすぐにイメージできるかもしれないが、この儀礼では、足さ數十メートルの木製のやぐらから、足首に蔓性植物のロープを結びつけた男たちが次々に頭からダイブしてゆく。そんな勇壮な内容であることを、儀礼は早くから観光客の関心を引き、番組で紹介された一九七九年頃にはすでに観光客向けのツアーが組まれるようになつた。

日本でヴァヌアツの知名度はかなり低い。ヴァヌアツをフィールドにしていると言ふと、「アフリカにある国でしょ?」などと聞かれることもある。ボツワナと間違えられているらしい…。

そんなヴァヌアツだが、それでも最近テレビ番組などで少しすつとり上げられるようになってきている。わたしの知る限りでは、最初にまとまつた形でヴァヌアツをとり上げた番組は一九七九年に放送されている。ペントコストという島の人びとがおこなつているヤムイモの収穫儀礼を紹介したものである。パンジー・ジャンプの原型と言えばすぐにイメージできるかもしれないが、この儀礼では、足さ數十メートルの木製のやぐらから、足首に蔓性植物のロープを結びつけた男たちが次々に頭からダイブしてゆく。そんな勇壮な内容であることを、儀礼は早くから観光客の関心を引き、番組で紹介された一九七九年頃にはすでに観光客向けのツアーが組まれるようになつた。



ヴァヌアツの首都ポートヴィラの街中。
ワンボックス型のミニバスは庶民の足



居間に置かれたテレビを見ている子どもたち

年にかけて放送されたものであり、ヴァヌアツをとり上げた番組が最近になつて増えていることがわかる。ボツワナとヴァヌアツを混同してほしくないわたしにとつて、こうした傾向は嬉しくもあるのだが、その一方で素直に喜べない部分もある。というのも、番組でとり上げられる地域がいつも決まって地方の村であり、登場する人びとはベニスサックや腰袋と一緒に出で立ちであるからだ。実際そのような姿で生活している人びともいるのだが、ヴァヌアツの人びとの大半はTシャツやズボン、ワンピースなどで暮らしている。また、ベニスサックなどを身につける人びとも、自分たちの伝統を守るといふ考え方に基づき、あえてそうした姿をしていることが多い。

ヴァヌアツ関連番組が増えてきたとはい、まだまだ少ない。それだけに前述のような説明がないまま、伝統的な衣装の村人たちをとり上げた番組だけが放送され続けると、視聴者のあいだに偏ったイメージができてしまうのではないかと心配である。そんなイメージを定着させないために、たとえば都市で生活するヴァヌアツの人びとに目を向けたり(小さいながらもとても美しい街がヴァヌアツにはある)、ヴァヌアツの人びと自身が制作した自分たちの生活や文化に関する番組(もちろんヴァヌアツにもテレビ局はある)を紹介したりすることが、どこかで必要となつてくるのではないかどうか。